

■ 機能計画 2

想定される古道センターの利用者ニーズに合わせて、3つの機能が相互に連携しながら運営する。

想定来訪者

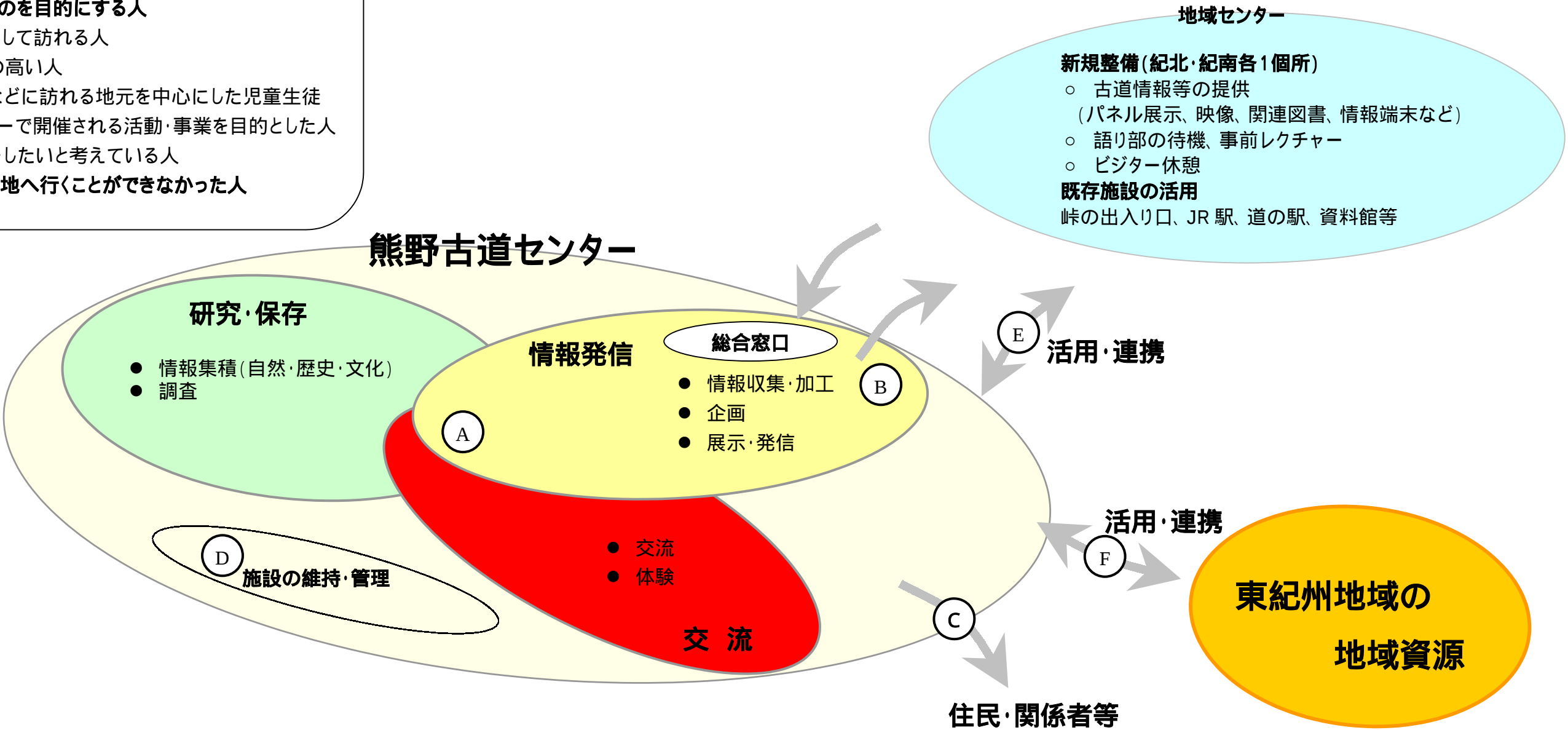
時間的余裕がある熊野古道ウォーカー

- 宿泊を計画してこの地域を訪れた人
- 自由な交通手段を持った人、県内に在住する人

センターそのものを目的にする人

- 地域拠点として訪れる人
- 研究意欲の高い人
- 地域学習などに訪れる地元を中心にした児童生徒
- 古道センターで開催される活動・事業を目的とした人
- 施設見学をしたいと考えている人

雨・荒天等で現地へ行くことができなかった人



想定アクセスによる行動類型

宿泊施設を核とするエリア(ツヅラト～始神)
古道センターを核とするエリア(馬越・八鬼山)
JR ローカル線エリア(三木・羽後～松本)
ドライブ周遊エリア(横垣、風伝、通り、川端、浜街道)
、 、 については、宿泊を伴う等時間的余裕のある
来訪者が、センターを利用する可能性がある。

- ① センター全体のマネジメント(情報発信、研究・保存、交流機能の連携)
- ② 集積された情報を加工、企画、発信。総合窓口機能(熊野古道に関する窓口機能)
- ③ 戦略的な住民・関係者との協働、連携強化
- ④ 施設の維持管理
- ⑤ 地域センター、道の駅等との連携
- ⑥ 東紀州地域の地域資源との連携
(なお、⑤、⑥については、センターのみで行うのではなく、他団体との連携のもとに行っていく)